

港湾臨海部官民で開発

国際交流や海洋研究

清水港まちづくり協

県や静岡市、地元企業でつくる清水みなとまちづくり公民連携協議会が策定したグランドデザインの概要が20日、静岡市役所清水庁舎で開かれたシンポジウムで市民に公表された。今後20年で清水港周辺の目指すべき将来像として、港湾・臨海地区の低未利用地を官民連携で国際交流や海洋研究などに積極活用する計画を示した。

シンポで計画公表



清水みなとまちづくりグランドデザインを市民に公表したシンポジウム＝20日午後、静岡市役所清水庁舎

清水港を構成する10地区のうち、日の出・巴川河口、JR清水駅東口・江尻、貝島・塚間の3地区を湾心部と位置付け、同協議会が主導的にまちづくりを進める計画を定めた。日の出・巴川河口地区では、国際クルーズ船の寄港増加と市海洋文化拠点施設の建設に対応し、国際交流や研究開発者の居住に適した関連サービス・施設を重点的に整備する。

JR清水駅東口・江尻地区はマリナートや清水テルサ、移転予定の清水水庁舎を核に、の新清水水庁舎を核に、駅西口中心市街地と一体で区の中核とする計画を構想する。

貝島・塚間地区には海洋研究拠点を集約。関係機関の誘致に加え、研究船用埠頭(ふとう)を備え、海洋ベンチャーの進出も促す。

各地区をつなぐ交通網は現状の路線バスに加え、小型のバスや自動運転車両の導入を視野に入れる。市民や関係者約14

0人が参加したシンポジウムで、同協議会の山本高匡副会長は「市民の皆さんにもぜひ積極的に

「花リレー」植栽地視察

浜松、磐田の11RC会員ら

浜松市と磐田市内のロータリークラブ(RC)11団体の会員ら約70人が20日、天竜浜名湖線沿線を進められてある地域振興事業「天竜線 人と時代をつなぐ花のリレー・プロジェクト」を視察した。協力は浜松市北区の

「ベースになる絵は描いた。大事なのは人がどう関わるか。市民の皆さんにもぜひ積極的に参加していただきたい」と呼び掛けた。(清水支局・垣内健吾)

視察を企画した浜名湖RCの田中信宏会長は「観光交流人口拡大と地域活性化につながるほしい。のんびりとした列車の旅で会員の親睦も深まった」と話した。



天竜浜名湖線沿線や駅で整備が進む「花のリレー・プロジェクト」を視察するロータリアン＝20日午後、浜松市天竜区二俣町の天竜二俣駅

拉致解決「支持、声援を」

存している」と信じる理由を説明した。横田めぐみ氏(1972年12月1日生まれ)は、2011年11月に拉致された。日本政府の拉致問題への関心が薄れる

天浜線

改元記念缶バッジ配布

28、6日 ウォーク参加者に

天竜浜名湖鉄道は平成から令和へ時代が移るのを機に、数量限定の記念缶バッジ(写真)を作った。沿線を発着地点に28日と5月6日の両日行うウォークイベント「天浜路ヘルシウォーク」で、参加者に無料配布する。同イベントで平成最後に

なる28日は、「ありがとう平成」の文字と転車台の写真をプリントした缶バッジ300個を午前8時半から奥浜名湖駅で配る。令和で最初の5月6日は、「令和元年記念」の文字と車両「TH2100形」のイラストをデザインした缶バッジ600個を午前8時半から西鹿島駅



で配る。同社担当者は「昭和から走る列車に乗ってイベントに参加してほしい」と話した。問い合わせは同社営業課<電053(925)2276>へ。